

薬剤師のための
資産運用基礎ガイド

🌐 <https://yakusaishibestcareer.com/>

01 薬剤師を取り巻く環境
—薬剤師を取り巻く環境
—資産運用を始めるタイミング

02 資産を増やす**3**つのステップ
—リスク・リターンの理解
—節税の手段と選定
—資産形成の手段と選定

03 当社のご紹介

01

薬剤師を取り巻く環境

資産運用を始めるタイミング

薬剤師の働き方と 将来の収入源

令和元年国税庁「民間給与実態統計調査」によると、給与所得者の平均給与は436万円。薬剤師は令和元年度「賃金構造基本統計調査」において平均561万円。

日本の所得税は年収436万円の場合は20%ですが、年収が695万を超えると23%・年収900万を超えると33%の税率となります。

薬剤師という職業は年収の高さゆえ、老後の貯蓄は簡単にできると思われがちですが、日本の税制は所得が高い人ほど税率が高くなっています。

税率

～	195万円	5%
～	330万円	10%
～	695万円	20%
～	900万円	23%
～	1,800万円	33%
～	4,000万円	40%
	4,000万円～	45%

薬剤師の働き方と 将来の収入源

年収が高いことと、税金や社会保険料を差し引いた自分が自由に使えるお金(=可処分所得)は別問題なのです。また、子供の教育費についても、早期教育や通塾などに力を入れるご家庭が多く、将来的にも薬学部に進学する傾向が高いため、一般家庭よりも多額の教育費がかかる点も考慮しておく必要があります。戦略的に収入源を確保し、節税などの対策を講じる必要があります。



資産運用を始めるのに ベストなタイミング =なるべく早く



資産運用を始めるのにベストなタイミングは、
「なるべく早く」です。長期で運用することを前提として
毎月一定額を積み立て、安定したリターンを得ることが資産運用の基本だからです。

収入が安定しているうちに資産運用を開始すると、仮に投資で失敗しても取り返すチャンスがありますが、年金収入のみとなる退職後は必然的にこれまで積み上げた貯蓄を取り崩すことになり、
その中で投資の失敗は老後の生活費を失うことに直結してしまいます。

資産運用の基本的な考え方としては、退職が近づくにつれ高リスクのものから低リスクのものへ
徐々に資産を移し替えるといった「守りの運用」に変えていく事が一般的です。

02

リスク・リターンの理解

節税の手段と選定

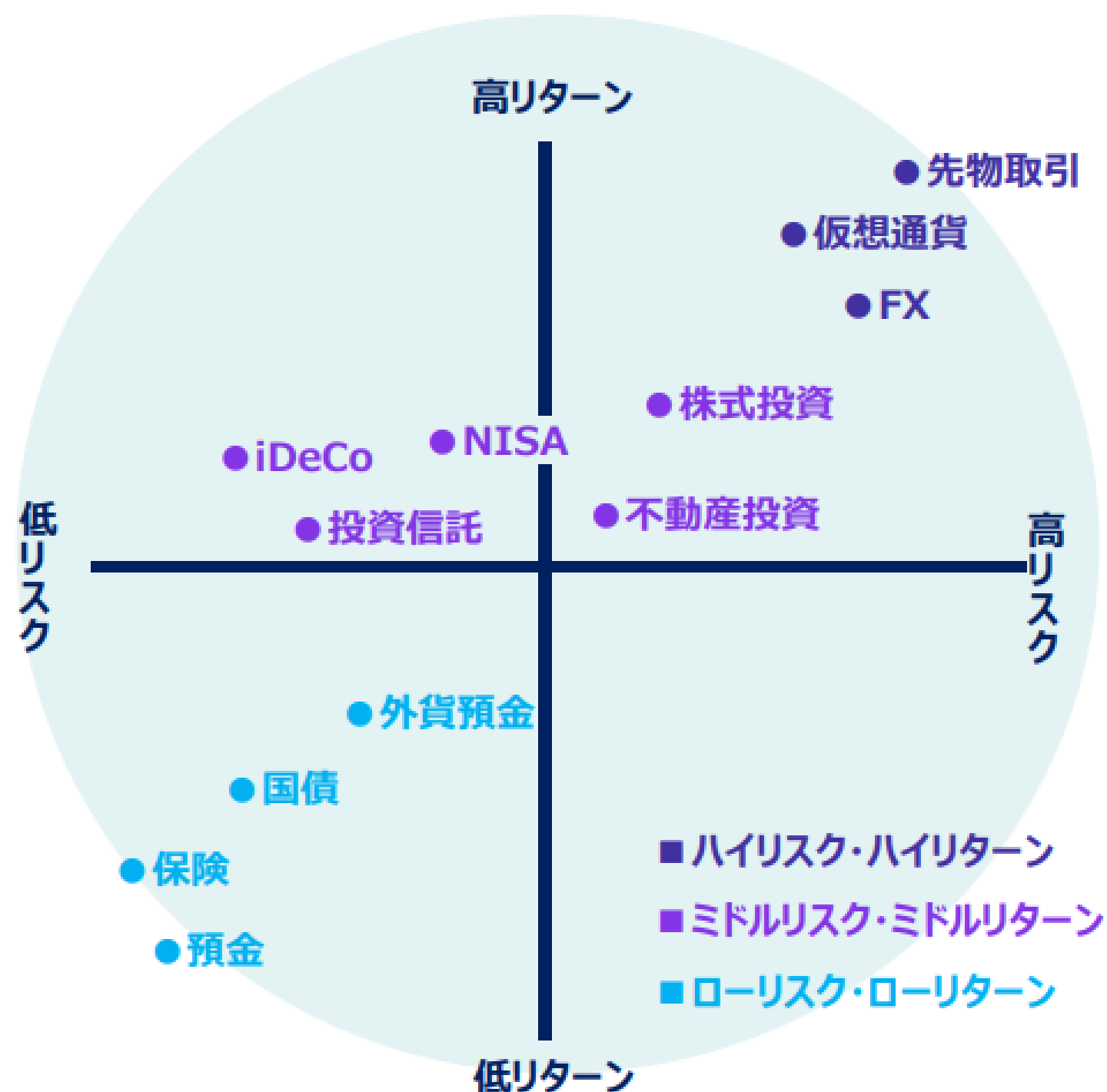
資産形成の手段と選定

手段を正しく理解する

左の図は、資産運用の手段にリスクとリターンの高低を図式化したものです。資産を増やす目的を大きく分類すると、一つは「今ある資産を守ること」そしてもう一つは「これから資産を増やすこと」

目的から逆算して手段を選ぶことが成功する資産運用の大きなカギとなります。リスクとリターンに密接な関係性があるためどの手段を、どのタイミングで、どんな順番で、どのように行うかが重要なポイントとなり、その選択が資産運用の明暗を分けることになります。

次項でハイ・ミドル・ロー リスクの高さ別にそれぞれの手段の特徴と方向をご説明します。



ハイリスク・ハイリターンの手段

FX(為替証拠金取引)

絶えず変動する為替レートの値動きを利用して収益をあげる方法です。外貨を保有するだけで得られるスワップポイントで収益をあげる方法や、比較的長期間の運用であるすいんぐトレード、分・秒単位で売買をして収益をあげるスキャルピングなどの手法があります。FXそれ自体はリスクの高いものではありませんが、レバレッジをかけると元金の10倍、20倍という取引が可能となるため、リスクの高い鳥木目とされています。



先物取引

将来の定められた期日に、特手の商品を、当初定めた金額で売買することを約束する取引です。当初決められた金額で売買するので、将来の金額が上がるのか、下がるのかを予測することになります。先物取引もリスクが高いものではありませんが、FXと同様元本の数倍の取引ができるためリスクの高い商品とされています。

ハイリスク・ハイリターンの手段



仮想通貨

近年メディアで取り上げられるようになり、実際に仮想通貨で決済をする機会も増えています。しかし、投資家の不安感や期待で値動きをする傾向が他の投資商品よりも高いため、依然としてリスクの高い投資商品であることに変わりはありません。

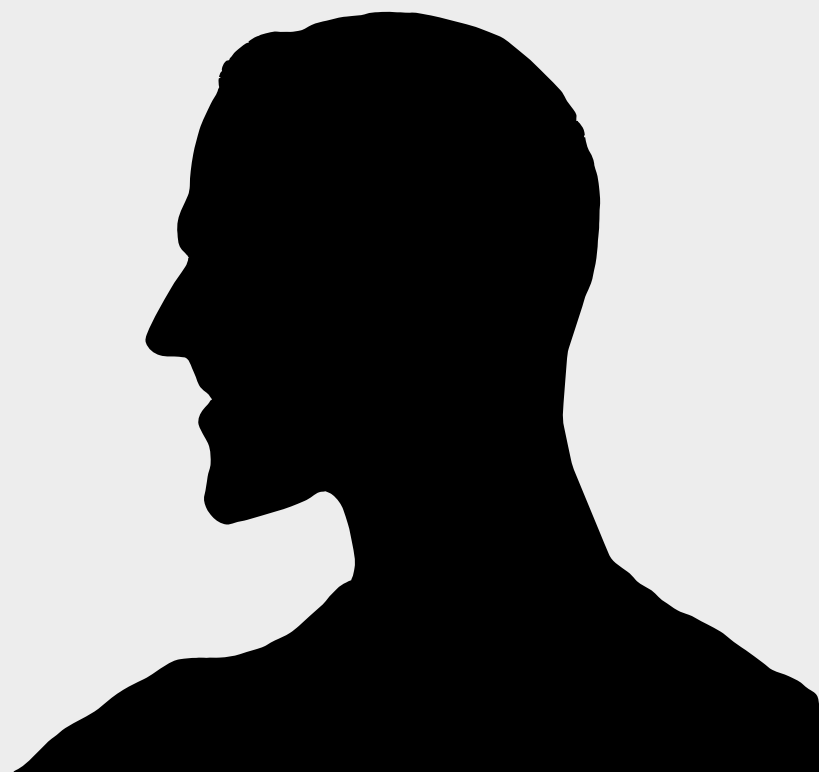
融資型クラウドファンディング

不特定多数の人から少額の資金を募るクラウドファンディングとは異なり、大きな額の資金を借りて企業に融資し、出資者が金銭的なリターンを得るものです。資金提供者と融資先の間に融資型クラウドファンディングの事業者が入り、予定されていた運用期間後に元金の返済と利息を受け取ることができます。利回りが5%以上に設定されているものが多く、案件によっては10%以上の利回りを出すものもあり、通常株式投資にはないハイリターンを期待することができます。



ハイリスク・ハイリターン商品に向く人

時間とお金に余裕がある人



ハイリスク・ハイリターンの商品(FX、先物取引、仮想通貨等)は、時間とお金に余裕がある人が向いています。こうした商品は値動きの幅も、スピードも極めて速い傾向があるため常に値動きをウォッチしておく必要があります。仕事中にスマホや別のウィンドウで価格を眺めてしまう人は、その投資に向いていないので避けるべきです。専業で常に市場を見ているトレーダーに勝てる可能性は高くありません。

FXの中でも、スワップ取得目的の投資やレバレッジを下げたスウィングトレードであれば、比較的安全に運用することは可能です。仮想通貨も積み立て購入できる方法があるので、ハイリスク・ハイリターン商品を扱う場合は時間をかけてゆっくり増やす方法を採用するように心がけてください。

ミドルリスク・ミドルリターンの手段

不動産投資

自身で不動産を購入しその物件へ入居者が付くことで家賃収入を得る一般的な投資手法です。入居者がいる限りは不労所得として家賃収入が入り安定した収益を得ることができます。また、節税対策としても不動産投資は利用されることがあります。



株式投資

企業の株式を保有し、売買で収益をあげる方法(キャピタルゲイン)と、保有することで受け取れる配当金で収益をあげる方法(インカムゲイン)という2つの方法があります。また、企業の株式を一定期間、一定数量保有していると、企業から割引券や食事券などをもらえることがあります。資産の純増だけでなく、このような株式勇退を楽しむ投資家も増えています。



ミドルリスク・ミドルリターンの手段

投資信託

多くの投資家が、投資信託に少しずつお金を払い、その信託を運用するファンドマネージャーに運用を任せる方法です。ファンドマネージャーはその投資信託の運用方針に基づいて運用を行い、得た収益を投資家に配分します。もちろんプロに任せても損失が発生する可能性があります。



NISA(小額投資非課税制度)

年間非課税枠の範囲内で運用をしていれば、運用益に税金はかからないという制度です。年間非課税額120万円、非課税機関5年間のNISAと年間非課税額40万円、非課税期間20年のつみたてNISAがあります。投資商品ではなく投資にまつわる制度の事を言います。なお、2024年からは通常のNISAはなくなり、新NISAとつみたてNISAの2つの制度が残ります。

ミドルリスク・ミドルリターンの手段

IDeCo(イデコ)

個人型確定拠出年金のことで、自助努力で老後の年金の上乗せを形成する制度です。年金の3階建て部分とも言われ、こちらも投資商品ではなく制度全般を表します。毎月最低5,000円以上から可能で、掛け金は全額所得控除、運用益控除、退職所得控除という3つの節税メリットがあります。

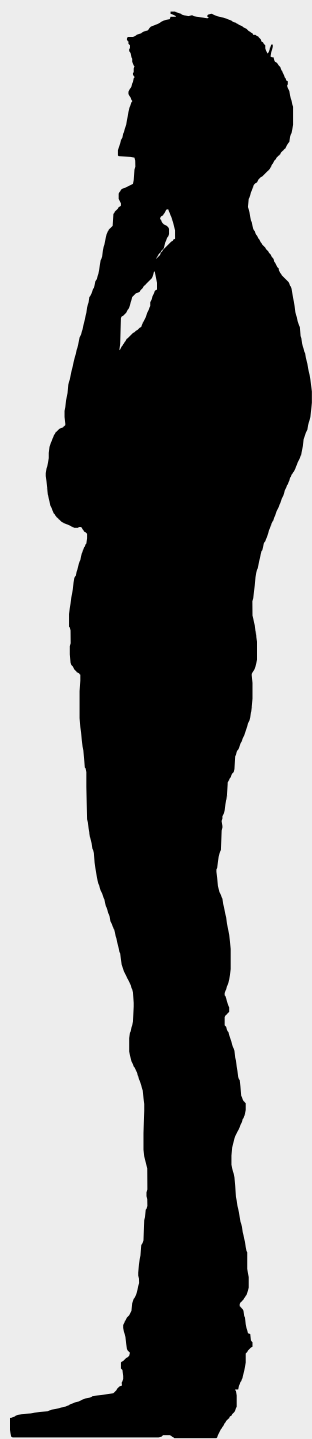


ミドルリスク・ミドルリターン商品に向く人とは

不動産投資は収入が高い人と相性がいい

ミドルリスク・ミドルリターンの商品のうち、不動産投資は収入が高い人と相性が良い投資と言えます。不動産投資を行っていくうえで、最もネックになる金融機関からの融資が通りやすくまた節税対策は特に効果が高い属性にあたります。

株式と投資信託は【長期運用×定額投資】という考え方が最もリスクを低く抑えることができる資産運用の方法となります。短期トレードという手法もありますが、短期で収益を上げるためには、常に市場をウォッチしておく必要があります。資産運用の時間を取りづらい方が株式や投資信託を行うなら、短期トレードではなく毎月一定額を積み立てながら長期で運用する運用方法を選択することがおすすめです。



ミドルリスク・ミドルリターン商品に向く人とは iDeCoを利用して スタートすることがおすすめ

投資をスタートする場合は、まずiDeCoを利用してスタートをすることがおすすめです。

iDeCo投資をすると60歳まで解約することができません。その一方で前述した3つの税制メリットがあります。なお、iDeCoは5,000円からスタートすることができ、上限は職場の福利厚生制度の内容によって異なります。NISAも運用益が非課税になる点は大きなメリットです。

まずはiDeCo,NISAの制度を利用して資産運用をスタートし、そこから徐々にその他のミドルリスク・ミドルリターン商品を増やしていくとよいでしょう。



ローリスク・ローリターンの手段

国債

国債は国が投資家からお金を借りた時の借用証書です。国債を購入すると、投資家はその国にお金を貸していることになります。投資家は一定期間後に国から利息を受け取ります。この利息が投資家の利益になります。

保険商品

保険の中には積み立てタイプの保険があり、毎月積み立てを行うことで万が一にも備えることができ、一定期間保有すれば老後解約時それまでのおおよそ今まで積み立てた分の金額、あるいはそれ以上の金額を受け取ることができます。外貨建ての保険は為替リスクがあり、利回りは高めですが元本割れをする可能性があります。

銀行預金

銀行や郵便貯金に預ける方法で、普通預金、定期預金などがあります。

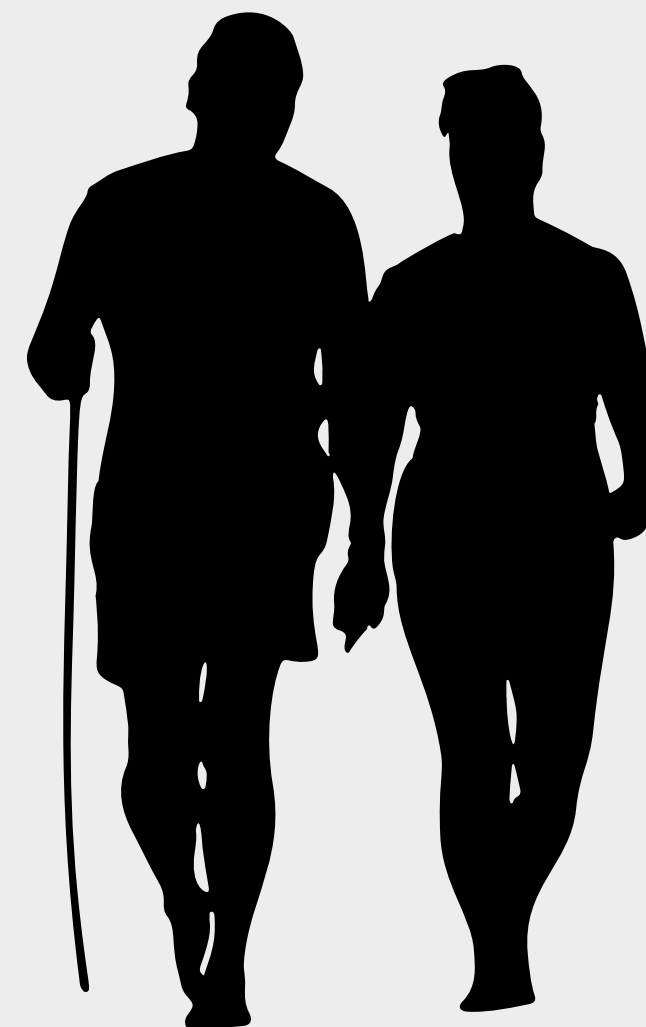
元本割れをする可能性はありませんが、金利が極めて低いため利息収入はなく資産運用の効果はあまり期待できません。



ローリスク・ローリターン商品に向く人とは

年金受給開始が近づいていて
貯蓄額を減らしたくない人

国債、保健、預金といったローリスク、ローリターンの商品は、元本割れをするリスクは少ないですが、資産を増やすという効果はほとんど期待できません。絶対に資産運用で損をしたくないという考え方の人、または、公的年金の受給が始まっていたり、年金受給開始が近づいていて貯蓄額を減らしたくない人はローリスク・ローリターン商品での運用がおすすめです。



今ある資産を守る＝節税

節税で最も一般的なものは、控除額を増やすというもの。
 収入額＝課税対象となるわけではなく、
 収入から必要経費を引いた(控除した)額が所得税となり
 そこから社会保険料を引いた多額が課税対象となります。

住民税は一律10%。

所得税は累進課税のため、年収400万～695万は20%
 年収695万～900万は23%・年収900万～1800万円は33%・
 1800万～4000万までは40%の税金が加算されます。

そのため、必要経費と考えられる部分を増やし
 控除を増やすことが節税となるのです。

税率

～	195万円	5%
～	330万円	10%
～	695万円	20%
～	900万円	23%
～	1,800万円	33%
～	4,000万円	40%
	4,000万円～	45%

勤務薬剤師の節税

勤務薬剤師は毎月の収入を給与という形で受け取っています。
 例えば、不動産投資の場合、不動産を購入すると初年度は初期費用や購入費用などで大抵の場合が赤字になりますが、この赤字と給与所得を損益通算することができるため、見かけの所得が減ることで所得税支払いを抑えることができ、結果的に節税対策が可能となります。
 また不動産(建物)の購入金額は一定数かけて毎年経費に計上することができる(減価償却)ため、その間、給与所得との損益通算が可能です。



開業薬剤師の節税

特に開業をしたばかりの頃は、先行きも見通せず節税が経営にも直結することから、比較的関心が高い分野といえます。

王道は、経費を漏らさず計上し課税所得を減らすことです。課税所得を減らす大きな要因となるのが、所得から差し引き出来る必要経費。経費を増やせば増やすほど計算上は節税につながります。一方で、業務に関連性と妥当性がなければ必要経費とは認められないので注意が必要です。

またプライベートカンパニーを設立し、収入をプライベートカンパニーの収益とする方法を選ばれる方もいます。法人の税率は低く、年収800万を超えたあたりから経費を差し引いても法人化すべきだと言われていています。法人の場合、様々な出費を経費計上できるなどのメリットもあります。ただ、法人化することで会計や事務処理が複雑になるなどのデメリットもあるため、節税のみを目的に法人化することは注意が必要です。

これから資産を増やす＝資産形成

資産を守る節税対策に目が行きがちですが、それと並行してこれからの資産を増やす＝資産形成も取り組んでおくリスクや将来の備えとすることができます。



まずは、さほど資産運用で大きなリスクをとる必要はなく、節税効果もあるミドルリスク・ミドルリターンの商品からスタートし、その後は時間と資金とを相談しながら進めて行くのが一般的ですが、将来のリスクや必要なるお金も変わってくるため、ご自身の状況と将来を踏まえながら検討していくことが大切です。

ミドルリスク・ミドルリターン

不動産投資で押さえるべきポイント

ここからはそれぞれの方法ごとにポイントを説明してきます。

不動産投資は信頼できる不動産会社を見つけることがポイントです。

不動産投資を成功させるには、まず物件の目利きから始まり、金融機関との交渉術から税金に関する情報まで幅広い知識が必要です。

ただ、毎日忙しい中で書物を読んだりセミナーに参加して、というのは現実的には困難です。

資格職である薬剤師は金融機関から融資してもらえる可能性が高く、不動産投資を始めたいと不動産会社を訪ねると投資家のためではなく不動産会社が売りたい物件を紹介されてしまう可能性もあります。

そのためまずは、本当に親身になって不動産投資の相談に乗ってくれる不動産会社を見つけることがポイントとなります。

また空室リスクなどの想定されるリスクについても正しい知識を身に付けておくことが必要です。

ミドルリスク・ミドルリターン

株式投資で押さえるべきポイント

株式投資にもさまざまな投資手法がありますが、短期売買で収益を得る方法は副業として考えている方には向いていません。なぜなら日々の業務で忙しく、株式取引の時間に生活を合わせることが困難でまとまった時間を確保することが難しいからです。株式投資のポイントは隙間時間の活用や手間のかかることは人に任せるという事です。



例えば、移動時間や入浴中に銘柄分析をしたり、早めに出勤して一番取引が活発な朝の時間の売り買いだけはチェックするなど、隙間時間を活用する。
また、どうしても忙しくて時間がない場合には、投資信託を利用してプロに運用をお任せする方法も検討しましょう。

03



開業・転職・キャリア相談 を希望の方へ

薬剤師 ベストキャリア

私たちがご提供するの単に「転職して終わり」ではない”キャリア支援”
経験豊富な国家資格者が多数在籍し、キャリアや開業・ライフプランを通
し「次の転職先をご紹介して終わり」ではない、皆さまの人生のステージ
に寄り添った、長期的なお手伝いをいたします。

また、医療・介護専門の転職サポートに20年以上携わる当社だからこそ医
療機関や求人詳細の情報量が圧倒的に豊富です。

個別相談を予約

<https://yakuzaishibestcareer.com/>

03

COMPANY DATA

社名	MRT株式会社
設立年月日	2000年1月26日
資本金	4億3,211万円
本社所在地	〒150-0041 東京都渋谷区神南1-18-2フレーム神南坂3階
代表者	代表取締役 小川 智也（医師）

[サービスの詳細を見る](#)

事業内容

医療情報のプラットフォームの提供

1. 医師及び看護師等の職業紹介
2. 医療機関の開設及び運営のコンサルティング
3. 医師が発信するオウンドメディアの運営
4. 医局向けグループウェアの運営
5. 遠隔診療・健康相談サービスの運営

<https://yakuzaishibestcareer.com/>